興

一样 株式会社

亀池パックの性能引き出す















いる。 で打ち抜き、

電池メーカー向けの仕事は現在、 加工に対応できる生産体制を作って 精密に溶接する技術を持ち、 シュリンクパックで包装してパックを 上げの約90%を占め、電池パック製造 つくる。電池に悪影響を与えないよう 個から1000個程度の多品種少量 昭和11年の創業当時から携わる 1ロット

以外にも二次電池内部に使われる樹 部品の製造や市販用乾電池のブリ ターパック包装も手がける。

強み 合わせて提案 高電導材料と溶接方法を

提案することで電池メーカーの信頼を を上げるために電気抵抗が少なく、 材料商社と連携して高電導の接続板を 高度な技術が求められる。そのために 薄くなる傾向があり、溶接にもより するのが得意。ただ、電池端子は容量 極を当てて通電する「シリーズスポッ 熱で材料を溶接する「抵抗溶接」と いう方法を使い、電池と接続板を連結 究して、 び、その材質に適した溶接方法を 溶接」で、狙った場所を精密に溶接 材料に電気を流し、発生する抵 中でも、2枚の材料の上面に電 材料と加工法を合わせて

一次電池や二次電池を接続板などで連結してさまざまな電池パックを製造する

業務 内容

電池パック製造が主力多品種少量の

品質 管理 「初品の検査」を徹底

電池パックは民生用から産業用まで

と端子を連結する接続板をプレス加工

溶接してつないだ後、

池パックの製造を主力とする。

次電池や二次電池を数本つなげた

製品もあり、 の中間と最後の製品検 作業指図書にチェック項目を記載し、 の間違いは後の製品すべてに影響する。 管理を特に重視している」と話す。 る。そのために不可欠なのが製造時の 用途はさまざまだが、中には高出力の 日、工程が変わるごと、加工条件が変わ 品質管理。小野髙司取締役は、「初品 るごとに最初の製品を検査する。ロット 安全性の確保が重要とな 初品 毎



初品検査の徹底と人材の教育で品質を維持する

品質を維持する。

溶接で信頼性を訴求 電池内部への影響を考えた

が難しい材料だが、これまで培った技術 の蓄積から「銅と異種材料との溶接方法 する仕事が増えている。銅は溶接するの 小野取締役は自信を見せる。 など、提案できることはまだある」 発熱しにくい銅などの材料を使って溶接 電池パックの製造では電気抵抗が低

組む。信頼性では特に、電池内部への 影響に着目する。 信頼性向上のための技術開発にも取り アルミの抵抗溶接技術をさらに高め、 状態を顧客に知ってもらい、自社の溶接 **投術の信頼性をアピールしていく考え。** 今後、3年程度の時間をかけて、 溶接後の電池内部

大阪 27

ISO 9001 ISO 14001



COMPANY PROFILE

昭和11年に大阪府守口市で、保倉健之助がプレス加工業として 創業しました。昭和39年に「三興工業」と社名を改め、松下電器 産業(株) 〈現 パナソニック(株)〉向けの電池極板の加工を始め ました。現在は精密な抵抗溶接をコア技術とし、電池を接続板と 溶接、連結した電池パックの製造を主力としています。

三興工業株式会社

事業コンセプト「TUNAGU つなぐ」のもと、精密抵抗

溶接の技術を核に顧客価値の最大化を図ります。 代表取締役 保倉 健さん

■主な事業内容

電機機械器具の製造 ■主な取引先 (納入先) 電池・蓄電池メーカー 電機メーカー、自動車部品

メーカー

所/〒570-0043 守口市南寺方 東通6-7-5 T E L / 06-6992-2474 A X / 06-6992-8377 業/昭和11年3月 立/昭和39年12月 資本金/2,000万円

従業員/64名

http://www.sankoukogyou.co.jp